

親園中学校道徳だより

令和4年 9月30日

文責:新江 規子

親園中学校では、道徳の教科化にともない、充実した道徳の時間を確保すべく、「ローテーション道徳」に取り組んでいます。「ローテーション道徳」とは、学年職員全員が各クラスで道徳の授業を週替わりで行うというスタイルです。教科の授業とは違った生徒の一面も見られるというメリットがあり、さらに、生徒にとっても、毎回先生が変わるので、違った雰囲気の中、様々な授業スタイルで学ぶことができ、意欲的に取り組んでいる様子が感じられます。今後も学びがいのある時間になるよう全職員で実践していきたいと思ひます。また、道徳だよりで、各学年の授業の様子、生徒の感想等の一部を保護者の皆様に発信していきますので、ご覧いただきたいと思ひます。

◎ 1 学年の実践 「傘の下」 主題名：社会の規範を守る 授業者：鳩原

傘を持たずに病院に行った主人公は、帰りに雨に降られ、自分勝手な思いから入口にある傘立ての傘を持ち帰ってしまう。その後ろから女性が傘を差さずに走って行った。後日傘を返しに行った主人公は、持ち帰った傘がその女性のものだったと知り、複雑な気持ちになる。主人公が傘を持ち帰る場面では、心の底には人の物を持って行ってはいけないという罪悪感がありながらも、自分の利益を優先させてしまう人間の弱さに気づき、真実を知った後の主人公の気持ちをよきまを守ることの意義について考える。

生徒の感想（一部抜粋）

- ・自己中心的な考えは自分も相手も巻き込んでしまうと思った。相手の気持ちを考え、ルールや決まりを守って生活していきたいと思った。
- ・自分勝手な行動は、相手が嫌な気持ちになってしまう。だから自分の責任は自分で負わなければならないと思う。
- ・その場しのぎの行動は、後で後悔すると思う。自分の行動に責任をもたなければならないと思う。
- ・勝手な行動は、誰かを困らせてしまうのでやってはいけないと思った。

◎ 2 学年の実践 「ロックンローラー」 主題名：地域社会への参画 授業者：蓮實

商店街で家業のそば屋の娘の浩美は、父から近くに大型スーパーができることを聞き、商店街を元気づける案を考える。そんなとき本屋の潤ちゃんから町おこしの企画に誘われる。ロックバンドを組んで大型スーパーと商店街の共存作戦ロックフェスティバルを考えている潤ちゃんに触発され、浩美も商店街のためにと立ち上がる。

生徒の感想（一部抜粋）

- ・行事を増やして、もっと地域と協力して、盛り上げていけば親園中学校が残っていくと思う。
- ・社会参画に関する資料をみて、政治に関する興味がない人が多いのだなと思った。政治に参加するのは自分のためでもあるから、もっと関心をもつべきだと思う。
- ・地域の行事などに参加して、高齢者との交流を増やしたい。
- ・私も親園の農業を引き継いでいきたいと思った。
- ・自分でできる社会参画として、親園学区に親園産食品を使った定食屋を作るアイデアを考えたい。



◎ 3 学年の実践 「プラットホームでのできごと」 主題名：人々が団結するために 授業者：後藤

「プラットホームでのできごと」は実話である。平成25年7月22日、埼玉県のJR京浜東北線南浦和駅で電車がプラットホームに停車し、乗客が降り始めた時、降りようとした女性がホームと電車の隙間に落ち、腰が挟まり動けなくなったという事故が起こった。駅員のアナウンスでその場にいた人々が一斉に1両32トンの電車を押し、女性を救い出した。この救出劇はアメリカ、ロシア、イタリアなど、世界から賞賛された。

生徒の感想（一部抜粋）

- ・たくさんの方が一人の女性のために行動し、救出していて、すごいと思った。私も行動できる大人になって、未来へつないでいきたい。そして一番最初に動いて、周り協力して問題を解決していきたい。
- ・私は駅員さんみたいに一番初めに動ける人になりたいと思いました。今まで助けてもらっていたことを、次は自分がたくさん実行できるようにしたいと思いました。
- ・行動力や判断力は、こういった時に生かされてくるのだと改めて実感することができました。
- ・団結をすることで大きなことも（どんなことも）乗り越えられる。